

「灰田さんの思い出」

夫のDVに耐えかねて実家に戻ったためぐみは、自室で古びたカセットテープを見つける。それは中学時代、友人の灰田さんと一緒に作ったオーディオドラマだった。

灰田さんは中学二年の春、熊本から転校してきたのだが、クラスに友達ができないまま、いつも一人でぼつんとしていた。ある日めぐみは、灰田さんの通学カバンにつけられたキーホルダーに目をとめる。そのキーホルダーはめぐみの好きなアニメ「サムライドラゴン」のグッズに間違いないものを感じていためぐみは、灰田さんとアニメの話をしてみたいと思うようになるが、話しかけるきっかけをつかめない。しかし夏休み直前の土曜日、アニメグッズの店で灰田さんの姿を見かけ、ついに思い切って話しかけた。最初は戸惑っていた灰田さんだったが、めぐみが同好の士だとわかるとすぐに打ち解け、アニメや声優について日が暮れるまで話し込んだ。

現在のめぐみは、生活を立て直そうとしてアルバイトの面接に行くが、うまくいかない。面接の帰り、たまたま近くを通りかかったことから、当時の灰田さんの家の前まで行ってみる。建物はまだ残っていたものの、廃屋然としていて、人の住む様子はない。だが立ち去ろうとしたそのとき、ふと何かを感じて二階の窓を見上げると、すりガラス

の向こうに人影のようなものが見えた。その影に強く見つめられているように感じるめぐみだったが、まばたきをした次の瞬間もう影は消えてしまう。

次にめぐみはスーパールのレジ係の面接を受け、今度は即採用となる。面接の担当者と話そうち、相手が中学二年のときめぐみと同じグループにいた倉本さんだということが判明する。単純に再会を喜ぶ倉本さんに対して、めぐみの方は複雑な気持ちを抱く。

めぐみは灰田さんのカセットテープを繰り返し繰り返し聞く。聞きながら、中学二年の夏休みのことを生き生きと思い出す。その夏、めぐみは毎日のように灰田さんと会った。お互いの家を行き来し、図書館やアニメショップに通った。ただ二人でいるだけで楽しかった。

あるとき二人は、図書館で見つけたカセットブックに触発され、一緒にオーディオドラマを作ることにする。灰田さんがもともと書いていたアニメの二次創作をもとにして二人で声を吹き込み、音入れなどの編集はめぐみが自宅でおこなった。しかし完成したテープを持って灰田さんの家へ行ってみると、灰田さんの置かれた状況は一変していた。そこには今までずっと家になかった灰田さんの父親の姿があった。じつは灰田さんが母親と熊本から引越してきたのは、父親の暴力から逃れるためだったのだ。怯えきっている灰田さんを見て、何も言えずに帰宅するめぐみ。ところがその日の午後になって、今度は灰田さんの方がめぐ

みの家に戻ってくる。灰田さんはさつきとは裏腹に楽しそうな表情で、早くテープを聞きたいと言う。めぐみは灰田さんが無理に笑顔をつくっていることに気がつく。テープの試聴会の途中、いきなり灰田さんからキスされためぐみは、驚いて灰田さんを突き飛ばしてしまう。そのことがあった日から、夏休み明けまで灰田さんに会うことはなかった。二学期が始まると、灰田さんはたびたび学校を休むようになる。めぐみは灰田さんと仲直りしたいと思いつながら、どうしても話しかけることができない。灰田さんは日に日にやつれていくようだった。髪の毛はボサボサで見苦しくなり、制服からは悪臭がするようになる。冬の初めのある日、久しぶりに登校してきた灰田さんは、男子から臭いについてからかわれ、クラス中の笑いものにされる。その日を最後に、灰田さんが学校に来ることはなかった。

四十四歳の誕生日。めぐみはスーパールの仕事でつまらないミスを連発し、かつての同級生である倉本さんに強い叱責を受ける。最低の気分ですごしたためぐみだったが、そこへ追い打ちをかけるように、別居中の夫が訪ねてくる。恐怖のあまり、着の身着のまま逃げ出すめぐみ。気がつくと灰田さんの家の前に立っていた。玄関は開いていて、めぐみは何かに導かれるように中へ入っていく。二階の、かつての灰田さんの部屋には蝋燭が灯っていて、薄汚れた格好をした老人が酒をあおっていた。それは灰田さんの父親だった。めぐみはいつのまにか手にしていた包丁で老人を刺し

殺す。蝋燭が倒れて部屋は火に包まれる。めぐみの意識は再び中学二年の夏休みへ、灰田さんの部屋へと回帰していく。